

にしのはら
西原観音堂

去る4月2日（水）、蘭島の南側に位置する清水区西原地区の西原観音堂において会式が行われました。この会式は、旧3月3日の節句に行われているもので、節句の行事らしく菱餅が供えられています。

西原観音堂は、西原集落の中でも高い場所にあり、茅葺き、トタン張りの三間堂で、古くは西側の山中にあった極楽寺が焼失し、現在地へと再建されたといわれています。



現在の建物は、棟札から享保8年（1723）の建立と考えられ、当初は壁のない開放的なお堂でした。その後、江戸時代の終わり頃には、現在のように柱の間に落と

し込み戸や葺戸しとみどが付けられ、明治時代には背面側の増築が行われ、現在の姿へと移り変わってきました。

また、建物内部の蛙股かえるまたという装飾部材は、太陽・月とともに、海の中を小船で進む仏様が表現されており、図柄としては大変珍しいものです。観音菩薩の住所といわれる補陀落山ふだらくさんを目指し、小舟で海を渡る補陀落渡ふだらくと海かみを表したものとも考えられ、金箔や赤・青・緑・白色の顔料できらびやかに彩色が施されています。

西原観音堂は、建立されてから約300年が経過した現在、シロアリの被害や地盤の不動沈下によって建物が傾くなど、大きく痛んでいます。有田川町では、西原観音堂が重要な文化的景観を構成する重要な物件に登録されたことを受け、先人がまもり伝えてきた歴史ある建物を後世に受け継いでいけるように、地域の方々と検討を進めていきたいと考えています。



建物内部の蛙股（かえるまた）